

# 生活科の評価の観点(案)

平成28年5月30日  
生活・総合的な学習の時間WG  
資料2-5

(第7回WG資料を修正)

## 生活科の評価の観点(案)

評価の観点	身近な環境や自分についての <b>気付き</b> 及び生活上必要な <b>習慣</b> や <b>技能</b>	身近な環境や自分についての <b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
観点の趣旨 (イメージ)	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え表現している	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとしていたりしている

(備考) 小学校低学年は、観点別の評価のみを行い、数値による評価は行わないこととしている。

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(平成22年5月初等中等教育局長通知)

(参考) 総則・評価特別部会で示された観点の例

観点(例) ※具体的な観点の書きぶりは、各教科等の特質を踏まえて検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ(例) ※具体的な記述については、各教科等の特質を踏まえて検討	(例)〇〇を理解している/〇〇の知識を身に付けている 〇〇することができる/〇〇の技能を身に付けている	(例)各教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方を用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている	(例)主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている